

履歴書

Name 平山 奈央子
Position 准教授
滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科
滋賀県立大学大学院 環境科学研究科 環境計画学専攻
Office 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂 2500
Phone 0749-28-8270
Fax 0749-28-8340
E-mail hirayama.n@ses.usp.ac.jp
Date of Birth 1981 年 9 月 9 日

学歴

2000 / 3 四天王寺高等学校 卒業
2001 / 4 滋賀県立大学 環境科学部 環境計画学科 入学
2005 / 3 滋賀県立大学 環境科学部 環境計画学科 卒業
2005 / 4 滋賀県立大学大学院 環境科学研究科 博士前期課程 入学
2007 / 3 滋賀県立大学大学院 環境科学研究科 博士前期課程 修了
2007 / 4 滋賀県立大学大学院 環境科学研究科 博士後期課程 入学
2010 / 9 滋賀県立大学大学院 環境科学研究科 博士後期課程 単位取得退学
2010 / 11 博士(環境科学)取得 (滋賀県立大学 第 21 号)

学位

博士(環境科学)
修士(環境科学)
学士(環境科学)

職歴

2003/8・9 (財)滋賀県国際湖沼環境委員会 JICA 研修事業補助職員
2007/2 滋賀グリーン購入ネットワーク 非常勤職員 着任
2007/11 滋賀グリーン購入ネットワーク 非常勤職員 退職
2007/12 滋賀大学 環境総合研究センター リサーチアシスタント 着任

2011/3 滋賀大学 環境総合研究センター リサーチアシスタント 退職
2011/4 滋賀大学 環境総合研究センター 研究支援推進員 着任
2011/6 滋賀大学 環境総合研究センター 研究支援推進員 退職
2011/7 金沢大学 男女共同参画キャリアデザインラボラトリー 特任助教 着任
2013/9 金沢大学 男女共同参画キャリアデザインラボラトリー 特任助教 退職
2013/9 滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科 助教 着任
2019/4 滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科 講師(現職)

その他

2013 年度(7月~9月) アリゾナ州立大学 客員研究員
2012 年度後期 聖泉大学 特別講師
2011 年 12 月~2015 年 3 月 総合地球環境学研究所 協同研究員

〔教育活動〕

滋賀大学

「近江と琵琶湖」(2009 年 11 月 8 日, 15 日)

金沢大学

理系のジェンダー学(2011・2012・2013)

ジェンダー学実践編(2011・2012)

社会的コミュニケーション入門-新たな価値を創造するコミュニケーション-(2013)

環境の現場に学ぶ(2013)

学校法人聖泉学園

キャリアデザイン B(2012, 後期)

キャリアデザイン D(2012, 後期)

キャリアアップ演習 B(2012, 後期)

滋賀短期大学

環境を考える(2015 年 5 月 28 日, 6 月 4 日, 6 月 25 日, 7 月 2 日, 7 月 23 日)

滋賀県立大学 現在担当科目, ()内は対象学年

地域開発論(2)

ファシリテーション技法・演習(1)

環境フィールドワークII(2)

人間探求学(1)

政策形成・施設演習(1)

政策計画基礎演習I, II(2)

政策計画演習I, II, III, IV(3-4)

環境政策形成過程論(大学院)

社会調査法演習(3) ※担当年(2015-2018)

社会システム分析設計・演習(2) ※担当年(2013-2014)

ウドンタニ・ラチャパット大学(タイ王国)

国際環境マネジメント, Water Management with Citizen's Participation, 2018年3月6日.

〔研究活動〕

専門分野

環境政策科学

研究分野

「利害関係者の湖に対する価値観」と「専門家による将来予測」を掛け合わせて、湖の持続可能性を評価する手法を提案する。

湖沼保全に関する、政策・組織体制・住民参加・情報・技術・財政基盤の実施状況を調査し、ガバナンスの評価方法を提案する。

行政・企業・地域住民が連携して琵琶湖の保全をすすめるため、連携のために各主体がうまく機能したかを評価するシステムを提案する。

ごみの減量とリサイクルを促進するため、行政の情報と地域住民の声をつなぐためのコミュニケーターを試行し、この役割が持つべき機能を明らかにする。

農業用水を末端水路までうまくいきわたらせるため、関係者間のコミュニケーションや専門家による情報提供などが水管理に与える影響を検証する。

キーワード

水資源管理, 琵琶湖流域, 住民参加, 戦略的コミュニケーション

所属学会

水資源・環境学会

環境情報科学センター

国際開発学会

査読

Environmental Monitoring and Assessment

競争的研究資金

1. 平山奈央子(2022)教育研究高度化促進費 提案課題研究, 琵琶湖流域保全のための住民の行動実態とそ

れに影響を与える要因構造, 2022 年度, 45 万円.

2. 平山奈央子(2022)湖沼保全政策に対する住民評価構造の解明-住民と専門家の評価の差異に着目して-, 基盤研究(C), 2022~2024 年度, 330 万円.
3. 井手慎司, 平山奈央子(2021)『連携の効率性』に影響を与える要因の構造分析-水環境保全のための連携を対象に-, 基盤研究(C), 2021-2023.
4. 平山奈央子(2019)湖沼流域の現状に対する住民評価と専門家評価の差異の解明:評価構造に着目して, 基盤研究(C), 2019~2021 年度, 320 万円.
5. 平山奈央子(2018)住民による自然環境評価と科学的データの差異に関する研究 -琵琶湖・淀川流域を対象に-, 公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団, 2018 年 10 月 1 日-2019 年 9 月 30 日, 50 万円
6. 瀧健太郎, 平山奈央子(2017)水害リスクに応じた地域防災力の向上戦略, 一般財団法人 河川情報センター, 2017 年 11 月 1 日~2018 年 10 月 31 日, 229 万円.
7. 平山奈央子, 瀧健太郎他(2017)平成 29 年度滋賀県立大学公募型地域課題研究, 内湖再生における住民参加手法の検討, 平成 29 年度, 30 万円.
8. 平山奈央子, 村上一真, 皆川明子他(2016)平成 28 年度滋賀県立大学公募型地域課題研究, 住民参加型評価による地域の魅力と課題の可視化, 平成 28 年度, 49.37 万円.
9. 平山奈央子(2015)住民と行政の協働川づくりのためのコーディネート手法に関する研究, 河川基金 公益財団法人河川財団, 平成 28 年度, 78.6 万円.
10. 平山奈央子(2015)課題解決型から多分野発散型の政策へ:琵琶湖保全政策の変化に影響を与えた要因の解明, 若手研究(B), 平成 28~29 年度, 320 万円.
11. 井手慎司, 平山奈央子, 佐藤祐一(2015)なぜ連携が起きるのか? -環境保全活動における多主体連携の生起要因に関する研究, 基盤研究(C), 平成 28~30 年度, 380 万円.
12. 平山奈央子, 金谷健他(2013)平成 25 年度滋賀県立大学公募型地衣課題研究, 市民参加による廃棄物の減量・資源化の仕組みづくり, 平成 25 年度, 63 万円.

研究プロジェクト

1. 内閣府, ウィズコロナ時代の実現に向けた主要技術の実証・導入に係る事業企画下水サーベイランスの活用に関する実証事業, 自治体において下水情報を有効活用する手法及び活用のための持続的体制に関する実証, 代表者 東北大学佐野 大輔(2022)
2. 総合地球環境学研究所, 総合地球環境学研究所 風水土イニシアティブ 基幹研究プロジェクト, 統合的水資源管理のための「水土の知」を設える, 代表者・渡邊 紹裕, 研究メンバー(2011-2015), プロジェクト HP<<http://www.chikyu.ac.jp/P-C09/JP/index.html>>
3. 文部科学省, 特別経費, 統合的湖沼流域管理においてハードウェア(心・文化・記憶)が果たす機能の研究-琵琶湖の環境保全を担う新しい公共性を体現した高度人材の効果的育成に向けて-, 代表者 中村正久(2012-2014)
4. 滋賀大学環境総合研究センター, 研究推進プログラム「重点研究」, 湖沼流域ガバナンスの向上に関する社会的・制度的要因の湖沼間比較研究, 代表者中村正久, 研究メンバー・住民参加担当(2011-2012), プロジェクト HP<<http://rcse.edu.shiga-u.ac.jp/gov-pro/>>
5. 財団法人 平和中島財団, 国際学術共同研究助成, アジアにおける統合的湖沼流域管理(ILBM: Integrated

Lake Basin Management)の課題と展望—諸湖沼法制度の実態研究を通して—, 代表者中村正久, 協同研究者(2013)

6. 文部科学省, 特別教育研究推進経費, 持続可能な資源利用と保全を可能とする流域管理のためのガバナンス向上に関する研究, 代表者中村正久, 連携研究者, (2008-2010)

賞罰

1. 環境情報科学センター, 学術論文奨励賞(2023)
2. 土木学会 環境工学研究フォーラム 優秀ポスター発表賞, 平山奈央子, 森永晃司, 大村達夫, 渡部徹, 下水モニタリングにもとづく感染拡大予測情報が個人の感染症対策に与える影響(2021)
3. 優秀職員表彰, 平山奈央子, 滋賀県立大学(2020)
4. 平山奈央子, 水資源・環境学会 奨励賞, 2019年6月【表彰】
5. 近畿地方整備局研究発表会 奨励賞, 平山奈央子, 佐々木和之, 住民と河川事務所との連携・協働手法について～琵琶湖河川レンジャーの取り組み～, 平成24年度近畿地方整備局研究発表会(2012年7月13日)
6. Best Poster Award, Naoko HIRAYAMA¹, Ryo HONDA, G. Tushara CHAMINDA, Sujithra K. WERAGODA, N.I. WICKREMASINGHE, Gayan AMARASOORIYA, Yuta TERAOKA and Tomonori KAWAKAMI (2014) Factors affecting people's preferences on lake function for sustainable management of Kandy Lake, Sri Lanka, The 11th International Symposium on Southeast Asian Water Environment, Bangkok, Thailand (2014/11/28)

著書

1. Hirayama, N. and Nakamura, M. (2020) JICA Training Materials: Integrated Lake Basin Management, Sewerage Policies and Finances in Lake Basin Management, a Case of Lake Biwa, Japan, International Lake Environment Committee Foundation, Shiga Pref.
2. Hiroya Kawanabe, Machiko Nishino, Masayoshi Maehata (2020) Lake Biwa: Interactions between Nature and People, Naoko Hirayama, Chapter 6, Evolving Issues Toward Improvement of the Lake Biwa-Yodo River Basin Governance, Springer, ISBN-13 : 978-3030169688
3. 平山琢二、須田義人編著(2019)家畜生産学入門, 平山奈央子, 第12章 畜産経営と畜産物の流通, 能登印刷, 石川. 978-4-89010-763-6
4. 窪田順平編(2016)水を分かち-地域の未来可能性の共創-. 平山奈央子, 第1章水と生きる—地域社会の変容と水をめぐる価値・認識の変遷「水路下流の水不足と水管理に関わるコミュニケーションの実態」, 勉強出版, 東京.
5. 琵琶湖と環境編集委員会編(2015)琵琶湖と環境-未来につなぐ自然と人との共生-. 平山奈央子, 第7章琵琶湖をめぐる人々の活動 6「琵琶湖の変化-総合保全計画」, 455pp, サンライズ出版, 滋賀.
6. 中村正久監修編著, 平山奈央子編著(2011)文部科学省特別教育研究推進プロジェクト 流域政策研究フォーラム完了報告書 流域ガバナンスとは何か, pp.1-191.

論文(査読有り)

1. 小山友梨子, 平山奈央子, 森永晃司, 大村達夫, 渡部徹(2022)下水モニタリング情報が COVID-19 対策強化意思に与える影響—感染拡大から2年後の調査—, 土木学会論文集 G(環境), 78(7), p. III_275-III_284.
2. 小山友梨子, Pham Duy Dong, 渡部徹, 平山奈央子(2022)ベトナムの大学生による水道の利用実態と評価—都市と農村の差異に着目して—, 土木学会論文集 G(環境), 78(5), p. I_309-I_316.
3. 平山奈央子, 森永晃司, 大村達夫, 渡部徹(2022)感染拡大予測情報に基づく感染対策強化の意思に影響を与

える要因—COVID-19 を対象として—, 土木学会論文集 G(環境), 78(3), p.104-111.

4. 平山奈央子(2021)幼児を対象とした環境学習の実施実態とその活発度に影響を与える要因, 土木学会 G(環境)地球環境研究論文集, 77(5), p. I_311-I_316. Doi: 10.2208/jscej.77.5_311.
5. 平山奈央子(2021)琵琶湖流域の環境評価に影響を与える要因, 環境情報科学 学術研究論文集, 35:55-60. Doi: 10.11492/ceispapers.ceis35.0_55
6. 平山奈央子(2021)新型コロナウイルス感染症拡大防止のための感染予防行動に影響を与える要因, リスク学研究, 31(2):103-111. Doi: <https://doi.org/10.11447/jjra.SRA-0366>
7. 平山奈央子, 瀧健太郎(2021) 滋賀県内自治会における地域防災力の変化要因に関する考察, 土木学会論文集 F6(安全問題), 77(2), p. I_108-I_113. Doi: https://doi.org/10.3130/aija.71.77_2
8. Tomohiko Ohno, Naoko Hirayama, Keito Mineo, Kengo Iwata and Izumi Inasawa (2021) The advocacy coalition framework in Japan: Contributions to policy process studies and the challenges involved, Review of Policy Research, Vol.39, Issue.1: 32-50. Doi: <https://doi.org/10.1111/ropr.12446>
9. Naoko HIRAYAMA(2021)Current Status of Creating Flood Hazard Maps by Local Residents and Factors Affecting the Information on Maps, Journal of Environmental Information Science, Vol.2020, No.2: 10-18.
10. 平山奈央子(2020)内湖の持続的な管理における地域住民の主体性に影響を与える要因, 環境情報科学 学術研究論文集, 34:61-66. Doi: https://doi.org/10.11492/ceispapersen.2020.2_10
11. 平山奈央子, 瀧健太郎(2020) 身近な河川の環境・防災を融合した体験型学習プログラムの効果検証, 土木学会論文集 F6(安全問題), 76(2), p. I_75-I_80.
12. Naoko HIRAYAMA and Shinji IDE (2020) Role Sharing among Stakeholders in Collaboration Projects for Lake Basin Conservation, Journal of Environmental Information Science Vol.2020, No.1: 68-79.
13. 平山奈央子, 山下花音, 馬場友美, 瀧健太郎(2020)自治会におけるハザードマップ作成の実態と水害対策の関係-滋賀県を対象に-, 土木学会 G(環境)地球環境研究論文集, 76(5), p. I_253-I_260.
14. 村上一真, 平山奈央子(2019)地域の自然資源の価値の維持のために望まれる保全活動主体の分析:早崎内湖自然再生事業を事例として, 土木学会論文集 G(環境), 75(5): I_223- I_232.
15. 平山奈央子, 井手慎司, 佐藤祐一(2019)環境保全のための多主体間連携の実態とあり方に関する一考察, 環境情報科学学術研究論文集, 33:73-78.
16. 平山奈央子, 武島のぞみ(2019)幼少期の自然への関心や流域内の居住期間が水環境評価に与える影響, 土木学会論文集 G(環境),75(7), III_321-III_327.
17. 瀧健太郎, 山下花音, 平山奈央子, 高西春二(2019)中小河川群の氾濫水理解析に基づく地域防災力向上戦略の検討, 河川技術論文集, 25, 79-84.
18. 平山奈央子, 木野剛志(2018)琵琶湖における外来魚リリース禁止の認知および遵守に影響を与える要因, 水資源・環境研究, 31(2), 93-100.
19. 村上一真, 平山奈央子(2018)自然環境の価値認識と保全活動意欲に関する構造分析—早崎内湖を事例として—, 環境科学会誌 31(3),123-135.
20. 戸苅丈仁, 宮本伸一, 平山奈央子, 池本良子(2017)下水汚泥との混合メタン発酵に向けたスーパーマーケット拠点方式ごみ分別収集システム, 土木学会論文集 G(環境), 73(7), III_105-III_113.
21. 村上一真, 平山奈央子(2017)琵琶湖に対する価値認識が早崎内湖の利用意欲に与える影響の分析, 水資源・環境研究, 30(2), 54-60.
22. 村上一真, 平山奈央子(2017)地域住民による交流の場としての価値評価と保全活動意欲に関する構造分析, 土木学会論文集 G(環境)地球環境研究論文集, 73 巻 5 号 p. I_173-I_181.
23. 平山奈央子, 和田有朗(2016)共分散構造分析を用いた琵琶湖流域の現状評価に影響を与える要因に関する研

究, 水資源・環境研究, 29(2):64-70.

24. 平山奈央子, 宮上勇人(2016)廃棄物減量等推進員制度の類型化に関する研究, 都市清掃, 69(334), 71-79.
25. 平山奈央子(2016)参加型灌漑管理における管理者のコミュニケーションに影響を与える要因に関する研究, 環境情報科学学術研究論文集, 30:163-166.
26. 平山奈央子・宇佐美美穂・井手慎司(2013)コミュニティ組織による水環境保全活動の活発さの差異に関する要因分析—滋賀県守山市を対象として—, 水資源・環境研究, Vol.25-2, 88-94(査読有り)5月
27. 平山奈央子, 川津優貴, 井手慎司(2012)琵琶湖を含む滋賀県の水環境に対する世論の長期的変遷に関する研究, 水資源・環境研究Vol.24, 13-21(査読有り)3月
28. 平山奈央子, 佐藤祐一, 岩見麻子, 井手慎司(2010)ワークショップにおける話題変遷の客観的把握と可視化の試み. 環境システム研究論文集38:163-170(査読有り)10月
29. 平山奈央子, 井手慎司(2007)琵琶湖における昭和 30 年代以前の COD 濃度の推定. 用水と廃水 49(12):43-50 (査読有り)
30. 平山奈央子, 井手慎司(2005)滋賀県における超高度下水処理導入問題に関する社会的合意形成を支援ツールの提案. 環境システム研究論文集 33:431-440(査読有り)

論文(その他)

1. 平山奈央子(2020)新型コロナウイルス感染拡大時期における感染予防対策の実施に影響を与える要因, 環境経済・政策研究, 14(1), p.43-46.
2. 今田晃憲, 平山奈央子(2019)NGO の事業実施体制が現地関係者との連携および持続可能な給水施設管理に与える影響—日本を拠点に活動する NGO に着目して—, 国際開発研究, 28(2):143-155.
3. Naoko HIRAYAMA, Ryo HONDA, G. Tushara CHAMINDA, Sujithra K. WERAGODA, N.I. WICKREMASINGHE, Gayan AMARASOORIYA, Yuta TERAOKA and Tomonori KAWAKAMI, 2015 A Pilot Study of Water Quality and People's Importance Level, towards Sustainable Management of Kandy Lake Basin. Proceedings of the 3rd International Symposium on Advanced Civil and Environmental Engineering Practices for Sustainable Development, pp141-147(reviewed).3月
4. 安藤哲城, 中村公人, 川島茂人, 皆川明子, 平山奈央子, 小野奈々, 秋山道雄, 橋本慧子(2015)水田地域における水不足の要因に関する検討—愛知川扇状地を事例として—, 第 72 回農業農村工学会京都支部研究発表会講演要旨集, pp.92-93.
5. 有山篤利, 平山奈央子, 柴田雅美, 富川拓(2014)CLCP を通じた学生のキャリア発達と利他的マインドの関係に関する基礎的研究, 聖泉論叢, 21 号:
6. 小國和子, 平山奈央子(2014)アクション・リサーチを通じた相互作用機会の創出—農民による地域固有の持続的灌漑管理実現に向けて—, 国際開発学会第 25 回全国大会発表論文(アブストラクト査読有り)
7. N.Hirayama, R.Honda, and 6 co-author (2014)Factors affecting people's preferences on lake function for sustainable management of Kandy Lake, Sri Lanka, The 11th International Symposium on Southeast Asian Water Environment, Bangkok, Thailand(アブストラクト査読有り)
8. N. Hirayama, M.Nakamura(2014)The Heartware Challenges in Lake Biwa Comprehensive Conservation Plan, 15th World Lake Conference, Perugia, Italy(アブストラクト査読有り)
9. 平山奈央子(2013)琵琶湖の湖沼流域管理をめぐる環境政治人文地理学会, 『人文地理』第 65 巻 5 号, 例会・部会要旨 政治地理研究部会, p.79-81.
10. 平山奈央子, 佐々木和之(2012)住民と河川事務所との連携・協働手法について～琵琶湖河川レンジャーの

取り組み～, 平成 24 年度近畿地方整備局研究発表会(アブストラクト査読有り)

11. N. Hirayama, M. Nakamura, S. Ide(2011)Tools for Meaningful Citizen Participation in Lake Governance --Making of Lake Biwa Comprehensive Conservation Plan Phase II--. 14th World Lake Conference, Austin, USA(アブストラクト査読有り)
12. N. Hirayama, M. Nakamura, S. Ide(2011)Proposal of a Tool for Evaluating People's Values of Lake Biwa. Lakes & Reservoirs: Research and Management 2011(16): 205-209(アブストラクト査読有り)
13. 佐藤祐一・平山奈央子・井手慎司(2011)琵琶湖流域管理システムに関する政策課題研究－琵琶湖の現状・価値認識と評価に関する研究－, 琵琶湖環境科学研究センター 研究報告書 7:59-69(査読無し)
14. 平山奈央子, 井手慎司(2011)湖沼流域ガバナンスにおける住民参加手法-第 2 期琵琶湖総合保全整備計画の再策定プロセスを事例として-. 滋賀大学環境総合研究センター研究年報 8(1):35-42(査読無し)
15. 平山奈央子, 杉山優太, 井手慎司(2009)琵琶湖に対する価値観を把握する手法の提案. 環境システム研究論文発表会講演集 37:149-153(アブストラクト査読有り)

学会発表

1. 渡部徹, 平山奈央子 (2022) 下水ウイルス情報発信の実証試験～ノロウイルスから新型コロナへ, 第 63 回日本臨床ウイルス学会, 北里大学白金キャンパス大村記念ホール (2022 年 6 月 18 日～19 日)
2. 小山友梨子, Pham Duy Dong, 渡部徹, 平山奈央子 (2022) ベトナムの大学生による水道の利用実態と評価－都市と農村の差異に着目して－, 第 30 回地球環境シンポジウム, 北海道大学(2022 年 8 月 31 日～9 月 2 日)
3. 小山友梨子, 平山奈央子, 森永晃司, 大村達夫, 渡部徹 (2022) 下水モニタリング情報が COVID-19 対策強化意思に与える影響－感染拡大から 2 年後の調査－, 第 59 回環境工学研究フォーラム, いわて県民情報交流センター (2022 年年 11 月 29 日～12 月 1 日)
4. 平山奈央子 (2022) -水法とコンフリクト-下水道の終末処理場をめぐる省庁間のバトル, 水資源・環境学会 2022 年度夏季現地研究会, オンライン (2022 年 8 月 20 日)
5. 平山奈央子 (2021) 下水モニタリングにもとづく感染拡大予測情報が個人の感染症対策に与える影響, 第 58 回環境工学研究フォーラム, オンライン (2021 年 11 月 16 日～11 月 18 日) .
6. 平山奈央子 (2021) 琵琶湖流域の環境評価に影響を与える要因, 2021 年度環境情報科学研究発表大会, オンライン (2021 年 12 月 6 日～12 月 12 日)
7. 平山奈央子 (2021) 琵琶湖・赤野井湾におけるオオバナミズキンバイ問題に対する政策と市民活動の変遷, 政策過程論研究会, オンライン (2021 年 11 月 26 日)
8. 平山奈央子 (2021) 滋賀県内自治会における地域防災力の変化要因に関する考察, 土木学会安全問題討論会 2021, オンライン (2021 年 11 月 24 日)
9. N. Hirayama and S. Ide (2021) Role Sharing among Stakeholders in Collaboration Activities for Lake Basin Conservation, The 18th World Lake Conference, Online, November 9-11, 2021.
10. N. Hirayama and M. Nakamura (2021) Sewerage Financial System for Lake Biwa Environmental Conservation, The 18th World Lake Conference, Online, November 9-11, 2021.
11. N. Hirayama (2021) Factors Affecting Environmental Evaluation on Lake Biwa Basin, The 18th World Lake Conference, Online, November 9-11, 2021.
12. 平山奈央子 (2021) 幼児を対象とした環境学習の実施実態とその活発度に影響を与える要因, 第 29 地球環境シンポジウム, オンライン (2021 年 9 月 29 日)

13. 平山奈央子, 中村正久 (2021) 戦後の日本における下水処理政策の変遷 -省庁の枠を超えた政策形成過程に着目して-, 環境経済・政策学会 2021 年大会, オンライン (2021 年 9 月 26 日)
14. 平山奈央子 (2021) 河川整備における住民参加とは何か -淀川水系流域委員会の経験から-, 水研究会, オンライン, 2021 年 7 月 3 日.
15. 平山奈央子 (2020) 内湖の持続的な管理における地域住民の主体性に影響を与える要因, 2020 年度環境情報科学研究発表大会, オンライン (2020 年 12 月 11 日~12 月 18 日)
16. 平山奈央子 (2020) 身近な河川の環境・防災を融合した体験型学習プログラムの効果検証, 土木学会安全問題討論会 2020, オンライン (2020 年 11 月 27 日)
17. 平山奈央子 (2020) 自治会におけるハザードマップ作成の実態と水害対策の関係 - 滋賀県を対象に -, 第 28 地球環境シンポジウム, オンライン (2020 年 9 月 24 日)
18. 平山奈央子 (2020) 湖沼環境保全のための流域連携, 河北潟流域シンポジウム, オンライン, 2021 年 3 月 14 日.
19. 平山奈央子 (2020) 侵略的外来植物管理における市民活動・琵琶湖赤野井湾のオオバナミズキンバイ問題を事例として, 水陸両生の侵略的外来植物の管理に関するワークショップ, オンライン, 2020 年 6 月.
20. 平山奈央子, 井手慎司, 佐藤祐一 (2019) 環境保全のための多主体間連携の実態とあり方に関する一考察, 2019 年度環境情報科学研究発表大会, 東京 (2019 年 11 月 27 日).
21. 平山奈央子, 武島のぞみ (2019) 幼少期の自然への関心や流域内の居住期間が水環境評価に与える影響, 第 56 回環境工学研究フォーラム, 岡山市 (2019 年 12 月 2 日~12 月 4 日).
22. 平山奈央子, 瀧健太郎 (2019) 地域防災力の 10 年間の変化と考察-滋賀県内の全自治会を対象としたアンケート調査より-, 2019 年度水資源・環境学会研究大会, 長岡京市 (2019 年 6 月 6 日).
23. 今田晃憲, 平山奈央子 (2019) 発展途上国の給水施設支援活動における受益者参加の実態 把握-日本を拠点に活動する NGO に着目して-, 国際開発学会第 20 回春季大会, 陸前高田市 (2019 年 6 月 15 日).
24. 平山奈央子, 武島のぞみ (2018) 琵琶湖流域の環境評価に影響を与える要因, 第 17 回世界湖沼会議, つくば国際会議場 (2018 年 10 月 15 日~2018 年 10 月 19 日).
25. 山下花音, 平山奈央子, 瀧健太郎, 清水司, 藤島卓也 (2018) 自治会におけるハザードマップの作成が地域防災力に及ぼす影響-滋賀県における水害に着目して-, 第 13 回防災計画研究発表会, 京都大学宇治キャンパス (2018 年 9 月 24 日~25 日).
26. 瀧健太郎, 清水司, 藤島卓也, 内田慎一, 山下花音, 平山奈央子 (2018) 環境・防災を融合した体験型学習の効果検証-近江八幡市立馬淵小学校の 10 年間の取組-, 第 13 回防災計画学研究発表会, 9 月 24~25 日.
27. 平山奈央子, 瀧健太郎, 倉橋義廣, 吉川浩一, 富田彩加 (2018) 平成 29 年度公募型地域課題研究内湖再生における住民参加手法の検討, 平成 30 年度 近江地域学会研究交流大会, 滋賀県立大学, 2018 年 12 月 16 日.
28. 平山奈央子 (2018) 地域住民による琵琶湖流域の評価, 平成 30 年度野洲川沿岸土地改良区地域用水対策協議会, 野洲川沿岸土地改良区事務所, 2018 年 8 月 29 日.
29. 平山奈央子, 木野剛志 (2017) 琵琶湖の外來魚対策事業に対する認知と協力に影響を与える要因, 水

資源・環境学会第 34 回研究大会, 立命館大学大阪いばらきキャンパス, 2017 年 6 月 3 日.

30. Hirayama N., Sato Y., Koyama T., Ide S. (2017) Factors promoting cooperation and collaboration among stakeholders for conservation of Lake Biwa basin, IASC2017, Netherlands, July 10-14, 2017.
31. Hirayama N.(2017) Important factors for stakeholders to evaluate conservation policy of Lake Biwa, 7th IWA-ASPIRE Conference 2017, Malaysia, September 11-13, 2017.
32. 平山奈央子, 村上一真(2017)地域住民による交流の場としての価値評価と保全活動意欲に関する研究-- 早崎内湖を対象として --, 近江地域学会総会・研究交流大会, 滋賀県, 2017 年 9 月 30 日.
33. 平山奈央子(2017)住民と行政の協働川づくりのためのコーディネート手法に関する研究, 平成 29 年度河川基金研究成果発表会, 東京大学 伊藤国際学術研究センター, 2017 年 7 月 27 日.
34. 平山奈央子, 佐々木和之(2017)住民と行政の協働川づくりのためのコーディネート手法に関する研究, 水研究会, 京都産業大学, 2017 年 7 月 29 日.
35. 平山奈央子(2017)琵琶湖保全政策の変遷と政策決定プロセスに関する研究, 洞庭湖-琵琶湖の環境ガバナンスと法政策に関する国際シンポジウム, 湖南師範大学, 2017 年 9 月 23 日.
36. 平山奈央子(2017)湖沼流域管理を考える際の視点, 第 17 回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦 2018) プレ会議第 2 部流域政策研究フォーラム, 国際湖沼環境委員会, 文部科学省研究交流センター, 2017 年 11 月 2 日.
37. 平山奈央子(2017)住民参加による水資源管理と環境評価, 平成 29 年度野洲川沿岸土地改良区地域用水対策協議会総会, 野洲川土地改良区, 野洲川土地改良区事務所, 2017 年 9 月 4 日.
38. 平山奈央子(2016)共分散構造分析を用いた琵琶湖流域の現状評価に影響を与える要因に関する研究, 2016 年度水資源・環境学会研究大会, 法政大学(2016 年 6 月 4 日)
39. 秋山道雄, 小野奈々, 平山奈央子他(2016)愛知川流域圏における水利システムの特性と課題, 2016 年度水資源・環境学会研究大会, 法政大学(2016 年 6 月 4 日)
40. Hirayama, N., Kino, T.(2016)Impacts of participating measures for reduction of alien fishes in Lake Biwa, 第 16 回世界湖沼会議, インドネシア(2016 年 11 月 7 日~11 日)
41. 平山奈央子(2016)参加型灌漑管理のための水管理者のコミュニケーションに関する一考察, 第 30 回環境情報科学 学術研究論文発表会, 日本大学会館(2016 年 12 月 5 日)
42. 平山奈央子(2016)CSR における活動連携と参加型評価, 水資源・環境学会 2016 年度冬季研究会, 大阪学院大学, 2017 年 3 月 4 日.
43. 平山奈央子(2016)早崎内湖と地域住民との関わり, 平成 28 年早崎ビオトープ 15 年あゆみ展, 早崎内湖ビオトープネットワーク, 早崎町公民館, 2016 年 11 月 19 日.
44. 平山奈央子(2016)琵琶湖流域の環境保全は良い方向に進んでいるのか? ~ 活動成果の可視化と進捗点検~, 平成 28 年滋賀県小学校教育研究会環境教育部会 実践交流大会, 米原市立春照小学校, 2016 年 11 月 22 日.
45. 平山奈央子(2016)多主体による連携と参加型評価の新たな進め方, 第 14 回川づくりフォーラム, 守山市コミュニティー防災センター, 2017 年 2 月 5 日.
46. 平山奈央子(2015)地域住民と河川管理者の連携・協働手法についてー琵琶湖河川レンジャーの取り組みー, 水研究会, 京都大学, 2015 年 12 月 5 日.

47. 平山奈央子(2015)ダム開発後の参加型農業用水管理:インドネシアビルビリダムを対象に, 滋賀県立大学環境科学セミナー, 環境科学部会議室, 2015年9月17日.
48. Naoko HIRAYAMA, Ryo HONDA, G. Tushara CHAMINDA, Sujithra K. WERAGODA, N.I. WICKREMASINGHE, Gayan AMARASOORIYA, Yuta TERAOKA and Tomonori KAWAKAMI, A Pilot Study of Water Quality and People's Importance Level, towards Sustainable Management of Kandy Lake Basin, Sri Lanka Proceedings of the 3rd International Symposium on Advanced Civil and Environmental Engineering Practices for Sustainable Development, pp141-147(2014年月日)
49. 小國和子, 平山奈央子(2014)アクション・リサーチを通じた相互作用機会の創出—農民による地域固有の持続的灌漑管理実現に向けて—, 国際開発学会第25回全国大会発表論文(2104年11月29日)
50. N.Hirayama, R.Honda, and 6 co-author (2014)Factors affecting people's preferences on lake function for sustainable management of Kandy Lake, Sri Lanka, The 11th International Symposium on Southeast Asian Water Environment, Bangkok, Thailand(2014年11月26-28日)
51. 平山奈央子, インドネシアにおける住民参加による水資源管理, 次世代重点研究プログラム講演会, 2013年11月25日, 金沢大学.
52. 平山奈央子(2013)The Difference of the State of Governance Between Designated and Non- Designated lakes, ACP第3回包括シンポジウム, 京都大学, (2013年10月28日~29日)
53. 平山奈央子(2013)琵琶湖の湖沼流域管理をめぐる環境政治, 人文地理学会 政治地理研究部会, 2013年7月20日, 大津サテライトプラザ
54. 平山奈央子, インドネシア南スラウエシにおける農業用水管理の実態—ビルビリ灌漑ダム受益地域のMandrojeneの役割に関する調査報告—, 水資源・環境学会2013年研究大会, 2013年6月22日, 飯田文化会館
55. N. Hirayama, The Difference of the State of Governance Between Designated and Non- Designated lakes -Focus attention on Lake Water Quality Conservation Law-, ILBM Heartware Expert Group Meeting, 2013年3月8日, 財団法人国際湖沼環境委員会
56. N. Hirayama, Approach to compare the state of governance between Small lake, Pond and Lagoon in Japan, ILBM Heartware Expert Group Meeting, 2013年2月8日, ブハネシュワー(インド)
57. 平山奈央子, 統合的湖沼流域管理を目指した湖沼流域ガバナンスのあり方に関する研究, 湖沼行政と流域ガバナンス研究交流会 中小湖沼, 潟湖, 溜池事例を中心に, 2013年1月16日, 財団法人国際湖沼環境委員会
58. N. Hirayama, Water quality change and environmental policy making process of Lake Biwa, International Symposium 2012 on Environmental/Eco Technology and Policy in East Asia.2012年8月3日, 金沢大学

講演会/他大学授業など

1. Hirayama, N. and Nakamura, M. (2021), Sewerage for Lake Basin Management, with Focus on its Financing: The Lake Biwa Case, JICA Training Course: Integrated Lake, River and Coastal Basin Management for Sustainable Use and Preservation Of Water, online, 2021-01-31.
2. 平山奈央子(2018)地域住民による琵琶湖流域の評価, 平成30年度野洲川沿岸土地改良区地域用水対策協議会, 野洲川沿岸土地改良区事務所, 2018年8月29日.
3. 平山奈央子(2018)Water Management with Citizen's Participation, 国際環境マネジメント, ウドンタニ・ラチャパット大学(タイ王国), 2018年3月6日.
4. 平山奈央子(2017)住民参加による水資源管理と環境評価, 平成29年度野洲川沿岸土地改良区地域用水対策協議会総会, 野洲川土地改良区, 野洲川土地改良区事務所, 2017年9月4日.

5. 平山奈央子(2016)早崎内湖と地域住民との関わり, 平成 28 年早崎ビオトープ 15 年あゆみ展, 早崎内湖ビオトープネットワーク, 早崎町公民館, 2016 年 11 月 19 日.
6. 平山奈央子(2016)琵琶湖流域の環境保全是良い方向に進んでいるのか? ~ 活動成果の可視化と進捗点検~, 平成 28 年滋賀県小学校教育研究会環境教育部会 実践交流大会, 米原市立春照小学校, 2016 年 11 月 22 日.
7. 平山奈央子(2016)多主体による連携と参加型評価の新たな進め方, 第 14 回川づくりフォーラム, 守山市コミュニティ防災センター, 2017 年 2 月 5 日.
8. 平山奈央子(2015)環境を考える, 滋賀短期大学, 滋賀短期大学, 2015 年 5 月 28 日, 6 月 4 日, 6 月 25 日, 7 月 2 日, 7 月 23 日.
9. 平山奈央子, 琵琶湖視察研修, 琵琶湖の現状と住民参加の取り組み, 河北潟水質浄化連絡協議会, 滋賀県琵琶湖博物館他, 2013 年 10 月 6 日.
10. 平山奈央子, インドネシアにおける住民参加による水資源管理, 次世代重点研究プログラム講演会, 金沢大学, 2013 年 11 月 25 日.
11. 第 22 回男女共同参画全国都市会議 in かなざわ 第 4 分科会子どもにとっての男女共同参画 パネリスト, 2012 年 11 月 15 日
12. 金沢大学地域連携推進センター市町共催講座 西南部女性学級 講師 題目「コミュニケーションデザインのすすめ」, 2011 年 9 月 2 日
13. シンポジウム 描いてみよう! 2020 年の暮らしと琵琶湖(主催:滋賀県琵琶湖環境科学研究センター) 分科会 3「暮らしと琵琶湖流域のつながり」 コーディネーター, 2011 年 1 月 10 日
14. 環境市民活動団体のための助成金セミナー(主催:NPO 法人水・環境ネット東北) 講師 題目:助成申請書の書き方, 2010 年 9 月 11 日
15. 市民環境フォーラム 彦根市の環境問題(主催:彦根市) コーディネーター, 2009 年 8 月 1 日
16. シンポジウム 琵琶湖の将来をどう描くか? ~水環境、生態系、それを取り巻く社会の視点から~(主催:滋賀県琵琶湖環境科学研究センター) コーディネーター, 2009 年 1 月 31 日
17. 2008 年度第 1 回彦根市民環境スクール(主催:彦根市生活環境課) 講師 題目:滋賀県「マザーレイク 21 計画」と昭和 30 年代の琵琶湖の水質, 2008 年 12 月 20 日
18. 全国青年環境連盟全国ギャザリング(主催:全国青年環境連盟) 講師 題目:琵琶湖の環境と保全活動について, 2008 年 3 月 1 日

研究報告書

1. 平山奈央子(2017)河川基金, 平成 28 年度, 住民と行政の協働川づくりのためのコーディネート手法に関する研究.
2. 平山奈央子, 村上一真, 皆川明子他(2017)平成 28 年度滋賀県立大学公募型地域課題研究, 平成 28 年度, 住民参加型評価による地域の魅力と課題の可視化.
3. 平山奈央子(2015)水管理や水不足の実態に関するアンケート調査, 秋山道雄, 水土の知を設える愛知川研究プロジェクト, (2010 年~2015 年)
4. 平山奈央子(2011)湖沼流域ガバナンスにおける住民参加手法—第 2 期琵琶湖総合保全整備(マザーレイク 21)計画の再策定プロセスを事例として—. 文部科学省特別教育研究推進プロジェクト 流域政策研究フォーラム完了報告書 流域ガバナンスとは何か:111-118.

5. 平山奈央子(2009)湖沼保全における住民参加. 文部科学省特別教育研究推進プロジェクト 流域政策研究フォーラム 2008 年度報告書 流域ガバナンスとは何か:64-84.
6. 平山奈央子・中村正久他 5 名(2009)琵琶湖とラグナ湖流域の事例に見る市民・学生の視点からのアプローチ. 滋賀大学環境総合研究センター.

学位論文

1. 平山奈央子(2010)社会的合意に基づく広域環境基本計画の再策定とその実施のための手法とプロセスの提案—マザーレイク 21 計画改訂を事例として—, 博士論文, 滋賀県立大学
2. 平山奈央子(2007)昭和 30 年代以前の琵琶湖における有機物指標の推定に関する研究-過マンガン酸カリウム消費量と CODMn(公定法)との関係を用いて-, 修士論文, 滋賀県立大学
3. 平山奈央子(2005)滋賀県における超高度下水処理の導入に関する社会的合意形成のための支援のツールの提案, 学士論文, 滋賀県立大学

〔社会活動〕

行政委員会

現在

1. 国土交通省 近畿圏広域地方計画有識者会議 委員
2. 国土交通省 近畿地方整備局 淀川水系流域委員会 委員
3. 国土交通省 近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所 河川レンジャー制度運営委員会 委員
4. 滋賀県 滋賀県基本構想審議会 委員
5. 滋賀県 環境審議会 委員
6. 滋賀県 マザーレイクゴールズ学術フォーラム 委員
7. 滋賀県 淡海の川づくり検討委員会 委員
8. 滋賀県 公共事業評価監視委員会 委員
9. 滋賀県 特定非営利活動法人指定委員会 委員
10. 滋賀県 農村振興交付金制度審議会 委員
11. 滋賀県 農政水産部建設工事等総合評価審査委員会 委員
12. 彦根愛知犬上地域 新ごみ処理施設整備連絡協議会 委員
13. 近江八幡市 環境審議会 副会長
14. 米原市 まいばら協働事業提案制度審査委員会 副委員長
15. 彦根市 廃棄物減量等推進審議会 副会長

過去

- マザーレイクフォーラム運営委員会 委員(2013 年 10 月～)

- 大津市 廃棄物減量等推進審議会 副委員長(2015年1月14日～継続中)
- 彦根市 廃棄物減量等推進審議会 委員(2011年12月26日～●)
- 彦根愛知犬上地域 ごみ処理施設建設候補地選定委員会委員(2014年12月16日～●)
- 長浜市 総合基本計画審議会 委員(2015年6月26日～●)
- 滋賀県 琵琶湖の世界的価値を考える会 委員(2011年7月1日～2012年3月31日)
- 滋賀県 産業振興新戦略策定委員会 委員(2010年4月19日～2012年4月18日)
- 滋賀県 地域教育力体験活動推進協議会 委員(2009年7月9日～2010年3月31日)
- 彦根市 環境審議会 委員(2008年8月1日～2012年8月30日)
- 滋賀県 琵琶湖流域管理シナリオ研究会 委員(2008年7月1日～2014年3月31日)
- 滋賀県 明るい選挙推進協議会 委員(2007年10月14日～2011年10月13日)
- 滋賀県 ヨシ群落保全審議会 委員(2007年4月27日～2009年4月26日)
- 滋賀県 行政経営改革・施策評価委員会 専門委員(2003年6月2日～2005年3月31日)

その他役職履歴

現在

1. 生活協同組合コープしが できるコづくり制度助成金審査委員会 委員
2. 環境フォーラム湖東 理事

過去

- NPO 法人 特定非営利活動法人 碧いびわ湖 理事(2011年4月～2018年3月)
- 第15回環境ボランティアリーダー海外研修(一般財団法人セブン-イレブン記念財団主催事業) 審査員(2012年8月2日)
- 流域政策研究フォーラム 事務局長(2008年4月～2011年10月)
- 滋賀県立大学同窓会 理事(2007年4月～2010年3月)
- NPO 法人 特定非営利活動法人 近畿環境市民活動相互支援センター 理事(2006年12月～●)

新聞・コラム記事等

1. 平山奈央子(2018)琵琶湖流域評価に関する住民と行政の差異,しがの住民と自治 329:1-5, 2018年12月15日.
2. 平山奈央子(2019)第17回世界湖沼会議に参加して,しがの住民と自治 331:10, 2018年2月15日.
3. 平山奈央子(2018)湖沼保全政策はどのように学び合えるのか,水資源・環境学会ホームページ, 2018年12月28日.
4. 平山奈央子(2018)世界湖沼会議を振り返って,中日新聞, 2018年12月21日.
5. 連載記事「琵琶湖と環境(全5回, 2008年3月/4月)」, 中日新聞(広域滋賀版)
6. 連載コラム「ドイツ環境ボランティア研修体験記(全12回, 掲載中)」セブン-イレブンみどりの基金 HP

(http://www.7midori.org/katsudo/support/leader/experience.html#germany_funtouki)

資格 ()内は取得日

1. 国会議員政策担当秘書(2011年4月27日)
2. 博士(環境科学)(2010年11月25日)
3. プロジェクトWET エducator(2007年10月2日)
4. 環境カウンセラー(2006年4月1日)
5. 環境教育一般指導者(2003年7月27日)
6. 普通自動車免許(2001年9月26日)

その他(行政の委託事業や市民活動業務)

1. 滋賀県栗東市が文化庁から受託した「文化芸術創造都市モデル事業」の事業評価のためのワークショップを企画および運営し、報告書を提出した。(2010年度)
2. 滋賀県立大学が策定に協力した「高月町まちづくりプラン(策定主体:滋賀県高月町)」における市民意識調査アンケートの設計および分析を行った。(2010年度)
3. 湖東地域定住支援ネットワークが滋賀県から受託した「空き民家を活用したまちづくり事業」における市民調査アンケートの設計および分析し、報告書を提出した。(2010年度)
4. これから行動隊が採択した滋賀県守山市「市民提案型まちづくり支援事業:変えよう・守山フォーラム事業“より良い地域医療のあり方を考える”」における市民アンケート調査の設計および分析を行い、報告書を提出した。(2010年度)
5. NPO 法人水・環境ネット東北が主催する「環境市民活動団体のための助成金セミナー(2010年9月11日開催 於:仙台)」の講師を務めた。(2010年度)
6. NPO 法人びわこ豊稜の郷が守山市から受託した「水辺遊歩道ネットワーク整備に係る全体構想作成業務」におけるワークショップの企画および運営を行った。(2009年度)
7. 環境学び舎わのたねが文部科学省及び環境省から受託した「環境教育リーダー養成講座」の企画および運営し、報告書を提出した。(2009年度)
8. 国土交通省河川レンジャー制度の一環として「琵琶湖河川レンジャー」を拝命し、琵琶湖やその周辺河川の地域住民と行政職員が、①川への想いを共有する、②川の課題にむけて連携・協働するための「場」をコーディネートした。(2006年度～●)
9. 近畿環境市民活動相互支援センターの理事として、近畿の環境団体が、人・もの・資金・情報・ノウハウ・マネジメント・専門性を相互に交流・活用させるためのネットワークづくりや中間支援のためのコーディネートを実施した。(2006年度～●)

2018年10月21日現在